

大学生のビブリオエッセー

産経新聞 令和元年（2019年）12月13日（金）

奈良県生駒市 川邊^{きよこ}甲余子（21）

【ねこのピート だいすきなしろいくつ】

エリック・リトウィン作

大友剛訳（ひさかたチャイルド）

2019. 12. 13

へしろいくつ／かなりさい
こう！

へあおいくつ／かなりさい
こう！

軽快な歌が耳に残る。

司書教諭講習の最終日、大学の先生がこの絵本の読み聞かせをしてくださった。ねこのピートはどんなときもくじけない。最後の一節にこうある。「なにがあっても／うたをうたって／まえにすすむってこと」。先生が伝えたかったことがよく分かった。

二週間後、小学校での教育実習が始まった。最初は不安でいっぱい。でも優しく明るい子どもたちが私の不安をかき消してくれた。もちろん実習中はたくさん悩み、たくさん苦しんだが、この子どもたちのために乗り越えるしかないと思命に取り組んだ。担任の先生と子どもたちには感謝しかない。だからこそ、この

絵本がつなぐ思いのバトン

絵本で、前へ進んでいくことをしっかり伝えたかった。

実習の最終日、次は私が子どもたちに読み聞かせをする番だ。ページをめくるごとに子どもたちと歌い、かけ合いをした。この絵本には楽譜がうしろについていて、みんなで歌える工夫がしてある。元気で明るい声を聞きながら、素敵な経験と思い出を胸に、私は改めて先生になることを心の中で誓った。

担任の先生はさっそく『ねこのピート』のシリーズを買ってくださった。みんながいつでも読んで歌えるよう学級文庫に置いたそうだ。

この出会いが自分を大きく成長させてくれた。それが夢への一歩となっていく。この前向きな気持ちが伝われば。絵本はこんな言葉でしめくくられている。「そう／それがだいじ！／きょうも／かなりさいこう！」